インターンシップ

次に、このセメスターのメインであるインターンシップについてですが、上記のとおり、私は法律事務所でお世話になっています。なぜこの場所を選んだと申しますと、私は、自分の将来のビジョンとして法律家を志そうと考えているからです。日本に居た際にも、法律事務所でアルバイトをしていたのですが、如何せん大分勝手が違います。違いについてここでは割愛させて頂くことにして、何をそこで私が行っているかについてお伝えします。

私の監督者は、弁護士です。彼は、主に少年犯罪や家族事件を手がけているのですが、それ以外にも犯罪事件や破産、そして労働問題にも取り組んでいます。つまり私は、幸運にも様々な種類の法律に触れあうことができています。ほとんど毎日、私は、彼に付き添う形で裁判所に出向いています。そこで私は、実際に裁判を傍聴することを通じて、何が今起こっているかの理解から始まり、裁判官が述べる判決が妥当なのかどうかといった事に対して、彼に質問をしながら理解を深めていっています。彼が裁判所に行かないもしくは私を連れて行くことが出来ない（民事裁判など）日には、事務所にいるその他の先生の裁判を傍聴しに行っています。また、アメリカは既に陪審員制度を採用しているので、日本で行われる前に実際に見ることが出来て非常にいい経験となっています。

かなしいかな、本当にこの街は犯罪が多いのが実情です。近年、凶悪犯罪（殺人、強盗、強姦など）の件数が軒並み上昇していると報告されています。そこで、私は、空いている時間に犯罪要因や犯罪の状況に関してリサーチをしているのですが、興味深いことを１つ挙げておきます。フィラデルフィアはペンシルバニア州の中にある１つの都市ですが、この州にある刑務所の構成が極端に偏っています。それは、州の人口のうち１０％を黒人が占めている中で、州全体の囚人のうち、５０％以上が彼らで占められているという事実です。１つの要因として社会的差別が考えられますが、それ以外にもいくつかの要因があり、かなり根が深い問題となっています。こうしたことは実際にクライアントに会うために刑務所を訪れた際に実感しました。

Falling Water を観に行ってきました。

同じプログラムを履修している早稲田生とパーティにて。

このインターンシップを通じて私が感じていることは、新たな知識を肌で感じながら体験することの楽しさだけではなく、実際に起きている現実社会、すなわち犯罪の現状、その一方で忙殺を余儀なくされている弁護士業務を鮮明に捉えることができることは今後生きていく上での糧になることは間違いないと考えています。付け加えておきますと、このような専門的な状況に対峙するに当って語学力が重要になってくることはいうまでもありません。

留学生活

最後に、留学生活に関して述べますと、フィラデルフィアに来てから早くも約３か月が過ぎ去ろうとしています。毎日が長く感じますが、気がついてみるとあっという間に１週間、１か月と時間が過ぎてしまいます。今まで１人暮らしを体験したことがなかった私にとって、家事は新たなチャレンジでした。料理もアイロン掛けも全部自分一人でこなさなくてはいけません。しかし、意外にもそれほど困ることなくこういったルーティーンワークは時間の経過と共に難なくこなせるようになってきました。要は、ただ単に自分がその経験をする時がなかっただけだったのではと考えています。私は、この貴重な時間を無駄にしたくないと思っているので、ほぼ毎週末には前もって計画を立ててパーティを開いたり、一人でひょっこりワシントンやニューヨークに足を運んでみたりしています。先日、日本から友人が訪問した際には、前々から訪れてみたかった Flank L. Wright の Falling water（落水荘）へ出かけてきました。あの日の思い出は、いつまでも忘れないと思います。（アメリカは本当に広すぎます！！）

このように、今自分が何をしたいのか、何が今の自分に必要なのかを常に考えながら充実した生活を何かにチャレンジしながら過ごしています。矛盾しているかも知れませんが、留学することとは恐怖を感じながら、興奮を味わうことではないでしょうか。

（2007 年 3 月 29 日）

伊藤　直人

いとう　なおと

早稲田大学社会科学部３年

ミシガン州 Hope College 留学中

千葉県出身。昨年8月より Hope College に在籍。

現在フィラデルフィアにてインターンシッププログラムを履修中。

留学生活で「チャレンジ」をしている伊藤君の姿が、よく現れているエッセイを、お届けします。

チャレンジは、行動だけではなく、彼自身の気持ちや考え方にもはっきりと表れています。恐怖を感じるほどチャレンジして、それで興奮している留学生活。伊藤君は素晴らしい体験をしています。

将来、法律家を志している若者が、外国の社会を垣間見、その社会の問題と原因を考える機会を持つことは、 社会や法律の捉え方に大きな影響を与えます。それを自覚して、チャレンジしている伊藤君を、心から応援したいと思います。